

最終学歴の形成と家庭の社会経済的背景 - 寄らば大樹の陰

滋野由紀子 （大阪市立大学大学院経済学研究科）

松浦克己 （広島大学大学院社会科学研究科）

報告要旨

独自に調査したデータにより、本人の最終学歴と父母の最終学歴、父親が45歳時点における職業に関する情報などを利用して、父母の最終学歴や父親の職業に代表される家庭の社会経済的背景が本人の最終学歴形成にどのような影響を与えているかを検討する。分析対象とする世代は生年1975～1980年のコーホートである。このコーホートでは最終学歴が高水準で横ばいとなり安定している。このコーホートの最終学歴の形成要因を取り上げることは、成熟した学歴社会の学歴格差の要因が何かを取り上げることである。それにより成熟した学歴社会における教育を通じた、世代間をまたがる所得の分配や親子間の社会的地位の推移、あるいは子供本人の稼得能力や社会的地位の獲得がどのように行われているかの研究の出発点を与えることが可能となるであろう。

分析の結果、最終卒業学校の正規就学年数、学校種類でみた本人の学歴形成に影響している要因は父親の教育年数と勤務先の企業規模であった。本人の学力を明示的にコントロールしていないという課題は残されているが、子供の学歴形成に家庭の社会経済的背景が影響していることが明らかとなった。